

令和元年度 大阪府立今宮高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

【日時】令和元年11月18日（月）15:40～17:00

【場所】大阪府立今宮高等学校 校長室

【委員】吉村 和彦 芦屋大学特任教授 元今宮高等学校長
向井 秀俊 大阪市立木津中学校校長
山本 英夫 戎橋筋商店街振興組合 事務局長
川島 経正 自彊会（本校 同窓会）会長（欠席）
宮崎 次郎 本校 後援会会長
阪田 全弘 本校 PTA会長（欠席）

【事務局】校長、教頭、事務長、首席

【内容】○ 授業見学6・7限

○ 事務局からの報告

① 保護者からの意見

② 令和2年度カリキュラムの変革および授業時間の変更について

③ 生徒による授業アンケートの結果について

④ 22期生進路状況中間報告

⑤ 令和元年度学校教育自己診断項目について

⑥ 第21回近畿地区高等学校総合学科教育研究大会（大阪大会）について

⑦ 授業公開週間と教員ミーティングについて

○ 教員ミーティングへの参加

【説明・意見等】

○質問・意見

- ・発達段階に応じた授業時間は必要であろう。新系列は私学的という印象を受けた。大学進学を考えて子どもを私学に進学させる保護者が一定数存在する。新系列には賛成である。しかし、成果を出すためには授業力のある教員の配置が必要であろう。

回答

- ・人材の確保に努めつつ、授業力の向上を図っていくことが必要になる。
- ・従来は系列を意識せず、科目選択を行い、いわゆる「選択ミス」をしてしまう場合があった。系列別の選択科目を示すことで、「選択ミス」はなくなると考えている。選択科目が多い総合学科の特徴はそのまま残している。

○質問・意見

- ・学習習慣の定着のためにも良い。志（こころざし）を育てる時間もしっかりと設けてほしい。

回答

- ・「科目選択は進路選択、進路選択は科目選択」となるキャリア教育をより系統的に充実させていく。探究活動についてもさらに充実させる計画である。

○質問・意見

- ・生徒たちの自己実現のために、充実したキャリア教育は必ず実行していただきたい。
- ・探究活動は新学習指導要領の大きなポイントの一つである。実現のためには教員の力量を高める必要がある。今宮高校は先駆的に探究活動を行ってきた。その伝統を受け継ぎ、新しい計画を実現してもらいたい。
- ・「Think Globally、Act Locally」という考え方はこれからますます必要となる。そして、教員の関わり方がますます重要になってくる。地域としても生徒の皆さんを区内の様々な取り組みにつなげていきたい。

回答

- ・進路実現のためには充実したキャリア教育は重要だと考えている。
- ・11月21日に浪速区役所で「浪速区 SDGs 推進連携」宣言式が行われる。ぜひ参画し、地域の課題に取り組むことで探究的な活動を展開したいと考えている。

○質問・意見

- ・成果は3年後に出る。強力かつ着実な運営を続けてもらいたい。

回答

- ・オープンスクール・説明会の参加者は増加している。その中で、改革に共鳴して来校してくれる方が増えてきている。

○質問・意見

- ・グローバル化の時代は答えがいくつもある時代である。その中で生きていく人材の育成のためにアクティブラーニングや「深い学び」の実践は不可欠である。教育、education の語源は“引き出す”である。生徒の潜在的な可能性を最大限に“引き出す”こと。多様な価値観を持つ人々が共生する世界の中で、それを“引き出す”ことが求められている。大改革後の今宮総合学科の躍進に大いに期待したい。

回答

- ・教職員がどれだけ熱く生徒たちにそれを伝えられるかが成否の鍵を握ると思う。

【教員ミーティング】

○意見・感想

- ・「主体的・対話的で深い学び」が実現できている授業がさらに増えていくよう、研鑽を積んでもらいたい。
- ・他教科の教員の授業を参観することはたいへん大きな学びとなるので、より広めてほしい。

< 次回予定 >

第3回 2月12日（もしくは2月26日）